

平成28年度第2回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成28年8月4日（木）15：00～17：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、高田委員、斎藤アドバイザー、青木委員（Skype）
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

(1) クラウドファンディングを導入した学修について、委員から以下のような提案があった。

- ・ 導入教育モデルとしては、昨年度提案した形で、主体性を引き出し伸ばし、イノベーションに関与できる基本的な能力として構想力を育成する。実践教育モデルとしては、価値創造を目指した実践力を醸成し、オープンなプロジェクトの立ち上げ運用に関与できる能力を醸成する。
- ・ クラウドファンディングを導入したモデルの進め方としては、サイト選定、価値創造・イノベーションの認識と対象策定、価値の活用シナリオ、事業計画、試作募集（ファンディング）、試作、協力企業中心に製造から保守、評価見直しを行う。
- ・ 新しい価値については、児童・高齢者の見守り、広域場所の安全性確保のための俯瞰、ペットの所在管理などが提示された。
- ・ 問題分析・解決策・妥当性検討からクラウドファンディングへの企画書作成、プレゼンを行う。
- ・ ソフトウェア開発し、公開先として、AppleStore や GooglePlay など世界に発信する手段により、評価やフィードバックを得る。場合によっては有料のシェアウェアとして金銭的価値も図れるのではないか。

(2) クラウドファンディングを導入した場合の課題など

- ・ 著作権の検討が必要ではないか。
- ・ 販売した場合など、大学としてどこまで責任を持って対応すべきか。例えば製造から保守については協力企業を中心とするなど、購入型ファンドや製造型ファンドとして募ることが考えられる。ステップを区切る形として仕様を確定させ、その評価のためにクラウドファンディングを導入してはどうか。または、試作までに留めてはどうか。
- ・ 高度なアクティブラーニングとして、クラウドファンディングの導入には仲介会社経由などの課題が考えられるが、起業につながるマネジメントの学びとして有効ではないか。
- ・ 子供や高齢者の見守りや健康など新しい価値の創造の要素を考える必要があり、その要素例に対応して、どのように分野横断していくのか具体例が提示できれば分かりやすいのではないか。
- ・ クラウドファンディングも一つのスタイルであり、価値を発掘して評価の場で判定ができる第三者評価の仕組みが他にも考えられないか。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は10月27日（木）に開催し、子供や高齢者の見守りなど新しい価値の創造を目指した授業ストーリーを検討することにした。